



高木 篤子 神奈川支部長

4 議事 議長 堀之内 睦男（常任理事） 白谷 恵子（常任理事）

- ①令和7年度事業報告
- ②令和7年度決算報告及び監査報告
- ③令和8年徽典会役員
- ④令和8年度事業計画
- ⑤令和8年度予算
- ⑥その他

5 当番幹事の引継

（会旗引継）八巻 一貴 実行委員長から  
清水 静子 次期実行委員長へ

6 閉会の言葉 仙洞田 篤男 副会長

## 【記念講演】

（進行：笠井 さゆり）

- 1 開会の言葉 今村 恵美子
- 2 講師紹介 笠井 さゆり
- 3 講演 『不易と流行を乗り越えて、正解のない時代に子供たちとどう向き合いますか？』  
講師 山梨大学大学院総合研究部教育学域教育実践創成講座 早川 健 氏

本講演では、附属中学校校長として3年間勤務された中での教育実践をもとに、「わからなさ」に寄り添う授業の在り方についてお話しくださいました。問題解決型授業において、子供一人一人のわからなさや思考の過程に寄り添いながら学びを進めていくことが重要であると述べられました。そうした授業を実現するためには、自力解決の時間に子供の考え方やつまづきを丁寧に見取り、比較検討によって学びを深めていくことが重要であると強調されました。話し合いの場面では、探索的会話を重視し、結論を発表することを目的とした発表会的会話に終始しないことの大切さについて、事例を交えて示されました。また、すぐに答えや発言を求めるのではなく、沈黙（間）を保障し、子供が考えを練る時間を待つことが、わからなさに寄り添う上で欠かせないことをご指摘されました。教師が答えを示すのではなく、問いを通して子供の思考を支える姿勢は、正解のない時代を生きる子供たちにとって重要であり、生成AIが進展する現代においても、学校教育の根幹をなすものであることを、改めて示していただきました。



- 4 質疑
- 5 御礼の言葉 中村 文彦
- 6 閉会の言葉 諸星 美穂

当日は、約50名の方々に御参加いただき、徽典会定期総会を開催することができました。県外からの参加者も多く、母校・山梨大学への関心の高さが感じられました。

早川先生のご講演では、「沈黙（間）と待つこと」という視点が印象的であり、子供の思考や表現を丁寧に支える教育の在り方を、見つめ直す機会となりました。